

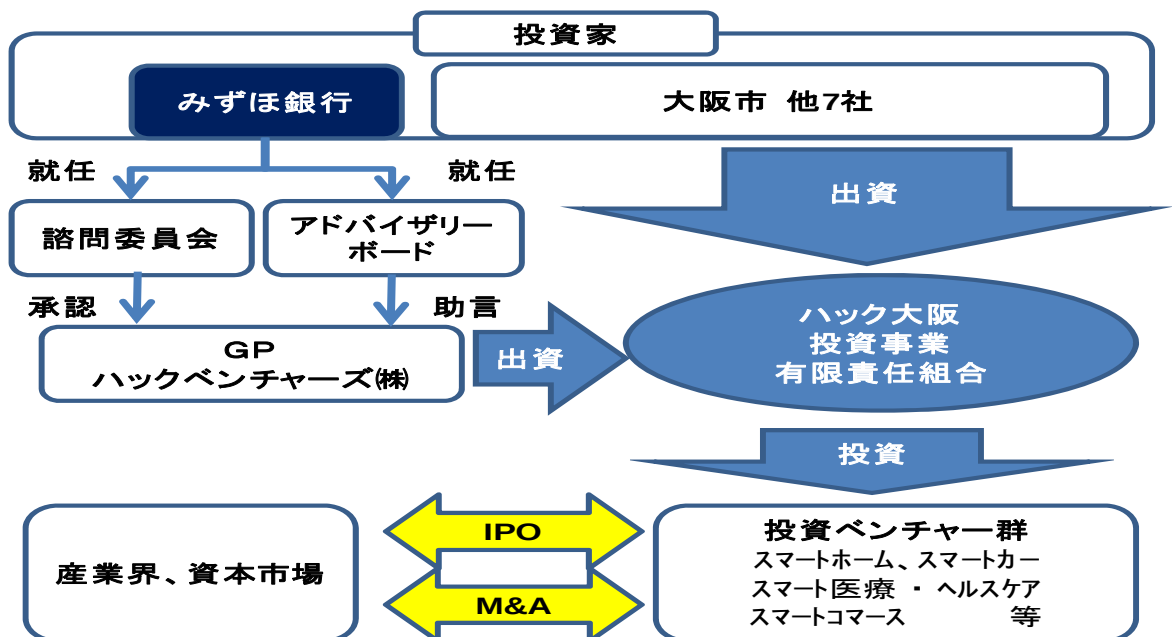
「ハック大阪ファンド」への出資について

株式会社みずほ銀行（頭取：林 信秀）は、「ハック大阪ファンド」（名称：ハック大阪投資事業有限責任組合、以下「本ファンド」）に 5 億円の出資を行いました。

ものづくり企業が集積する大阪をはじめとした関西圏の経済成長に向けて、大阪市の「イノベーションエコシステム」実現に向けた取り組みのもと、本ファンドは、関西企業が有する「技術」と IT 関連産業が盛んな米国シリコンバレーの豊富な「アイデア」等とのマッチングを通じて、関西圏に新しい事業を創出し、関西経済の発展に貢献することを目的としています。ファンド総額は 48 億円で、投資対象は、IT を活用することで一層のビジネス創造が期待できる「新産業成長領域（スマートホーム、スマートカー、スマート医療・ヘルスケア、スマートコマース等）」を想定しており、関西圏が「次世代産業創造の場」となることを目指していきます。なお、本ファンドの運営は、大阪市が公募により選出したハックベンチャーズ株式会社（社長：校条 浩）が行います。

〈みずほ〉は、地域におけるイノベーションの創出と推進が、日本経済の発展に寄与するとの認識に基づき、「地方創生」に向けたさまざまな取り組みを進めています。本ファンドへの出資もこうした取り組みの一環で、本ファンドにおいては、民間の有限責任組合員として唯一、「諮問委員会」と「アドバイザリーボード」の両方のメンバーに就任しており、投資対象先へのリスクマネーの供給や成長支援を行うことを通じて、関西経済の発展に貢献していきます。

（スキーム図）



以上